



発行所 日刊建設工業新聞社
〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10
電話03(3433)7151 11tps://www.decn.co.jp/
©日刊建設工業新聞社 2018
編集 電話03-3433-7161 mail-ed@decn.co.jp
印刷 電話03-3433-7152 mail-sa@decn.co.jp
広告 電話03-3433-7154 eivyo@decn.co.jp

THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

日刊建設工業新聞

2018年(平成30年) 12月11日 火曜日

第19566号

〈40〉三大不可能話・禹ノ瀬開削30周年

ではないかと推測される。 際立って価値高い碑である 甲府盆地の唯一の出口は と思えている。碑文の中に 釜無川と笛吹川のほか、多 僧策彦周良のことが書かれ くの河川が合流し、河川と ている。策彦周良こそが、 河川の立体交差(伏越)が 李冰・李二郎親子による都 一番多い所である。その立 江堰の治水を武田信玄に伝 体交差による治水の端緒 えた人と考えられる。武田 は、名代官と称される中井 信玄の編み出した信玄流治 清太夫ではないか。笛吹川 水の系譜がたどれることに なる。信玄の治水はその後、 造碑に、中井清太夫の治水 佐々成政を経て加藤清正の の偉業を禹の治水に比する ものと刻されている。

明治維新150年と 治水の歴史

竹林 征三

富士川の甲府盆地からの 出口を禹ノ瀬(うのせ)と いう。全国で「禹」といっ 字が付く唯一の河川地名で ある。甲府盆地には古くか ら三つの不可能話がある。 一つ目が「野呂川話」。 水の豊かな野呂川の水を山 脈を越えて水不足の御勅使 川扇状地に導水してゐる話 だ。二つ目が「開かずの国 道雁坂峠」。甲府盆地から 雁坂峠を越して秩父へ抜け る国道は大山塊に阻まれて 実現しない。三つ目は甲府 盆地の唯一の富士川の出口 禹ノ瀬の開削である。

禹ノ瀬での上流が浸水常 襲地帯になっている。禹ノ 瀬を広げる開削の話はある が、開削すれば下流の洪水 が増えることから大反対が あり実現しない。もともと 甲府盆地は大湖水であっ て、穴切明神や瀬立不動、

蹴裂明神などの神々が切り 開いたという伝説がある。 この禹ノ瀬開削は富士川治 水の最難課題である。その 地に治水の神・禹の名前を 付けたのは誰か。甲府の歴 史書の古典『甲斐国志』の 発刊前までは鶴の瀬であっ た。編者の内藤清右工門の 字(あざな)は禹昌である。 そのようなことより、禹の 瀬の命名者は内藤清右工門

である。 際立って価値高い碑である 甲府盆地の唯一の出口は と思えている。碑文の中に 釜無川と笛吹川のほか、多 僧策彦周良のことが書かれ くの河川が合流し、河川と ている。策彦周良こそが、 河川の立体交差(伏越)が 李冰・李二郎親子による都 一番多い所である。その立 江堰の治水を武田信玄に伝 体交差による治水の端緒 えた人と考えられる。武田 は、名代官と称される中井 信玄の編み出した信玄流治 清太夫ではないか。笛吹川 水の系譜がたどれることに なる。信玄の治水はその後、 造碑に、中井清太夫の治水 佐々成政を経て加藤清正の の偉業を禹の治水に比する ものと刻されている。

禹ノ瀬には「富士水碑」 という立派な石碑が建立さ れている。富士川舟運を切 り開いた角倉了以・素庵親 子の偉業を治水の神・禹王 の偉業に比するものとたた えている。この「富士水碑」 は全国に130以上報告さ れている禹王碑の中でも、

特性を記すと、▽日本一高 い山を水源として、日本一 深い駿河湾・駿河トラフへ と流れ下る。まさに日本の 急流中の急流である▽富士 川の最下流の富士市は河川 の下流の顔つきがない。中 流のシンボルである大扇状 地である▽川筋は中央構造 線・フォッサマグナに沿い、 いくつもの崩壊地を持つ有 数の地質変動の河川である ーなど。

その個性豊かな河川の治 水をものの見事にとらえた のが有名な『河相論』の安 芸咬一博士である。人間は 一人一人顔つき「人相」が 違つように、河川にも河相 がある。川の個性にあった 治水を行つべきだと主張さ れた。その後、日本の河川

研究から総合治水の考えを 説いた高橋裕先生の研究も この富士川の治水から生ま れた。また、三大不可能話 の筆頭「できない話は禹ノ 瀬の開削」を可能にしたの が元建設省河川局長をされ た広瀬利雄氏のベルマウス の呑み口部の知恵の研究で あった。 昨年は「禹ノ瀬の開削」 30周年の記念すべき年であ った。それに合わせ、「第 6回禹王サミット in 富士 川町」で2017(平成29) 年10月に開かれた。明治維 新150年の日本の治水史 をかざる重要なイベントと なった。 <参考文献・『物語日本 の治水史』鹿島出版会> (常葉大学名誉教授、風土 工学デザイン研究所会長)

週1回掲載